

“やきものの産地”有田町の魅力を乗せて走る 高校生がデザインしたコミュニティバスをお披露目

日本の伝統工芸品のひとつ、有田焼の産地として知られている佐賀県有田町。同町では、住民の皆さんが通学や通院、買い物など日常生活で利用する重要な移動手段として、日野ポンチョのコミュニティバスが活躍中です。そして3月1日に開催された『あたり春フェス2026』にて、新たなラッピングが施された車両がお披露目されました。

今回、ラッピングの原画を手掛けたのは、中島 愛莉さん。今年の3月まで有田工業高校に通学していました。“この町でデザインを学んだ学生に軌跡を残してほしい。”という町役場の思いから、全国でも珍しいデザイン科を持つ同校の学生に依頼。地元で学生生活を送る高校生ならではの視点で、見かける度に有田町のイメージが感じられる新しい魅力を持った車両ができました。中島さんは「自分の考えたデザインのバスが町の人を乗せると思うと嬉しく、この作品を通して、有田のことをもっと好きになって喜んでほしいです」とニコリ。

住民の方はもとより、観光で訪れた方にも町の魅力を伝える有田町コミュニティバス。“デザインをきっかけにバスに乗ってみたい”と思ってもらえるよう、町の期待が込められています。



コミュニティバスのデザインを手掛けた中島 愛莉さん。

ARCHION(アーチオン)グループの発足および 日野自動車の新経営体制について

日野自動車株式会社(以下日野)と三菱ふそうトラック・バス株式会社(以下三菱ふそう)は、ダイムラートラック社およびトヨタ自動車株式会社を含む4社合意のもと、2026年4月1日、ARCHIONグループを発足させ、事業を開始いたしました。

これに伴い、日野の新たな代表取締役社長CEOには、サティアカーム・アーリヤが就任いたしました。また、前社長の小木曾 聡は、グループ全体の技術戦略を牽引するARCHIONの取締役・CTO(Chief Technology Officer)に就任いたします。

ARCHIONグループでは、「商用車の未来をともに作る」という思いのもと、4社協業のシナジーを最大化し、それを基盤としつつ、日野と三菱ふそうの両ブランドは市場で切磋琢磨し合うことで互いの価値を高め、日野と三菱ふそうそれぞれがお客様に対してより良い商品を提供し、幅広いステークホルダーに対して持続的な貢献を続けていきます。